

《原 著》

## $^{99m}\text{Tc}$ -Galactosyl Human Serum Albumin (GSA) シンチグラフィの 肝予備能評価法としての有用性とパラメータの術後変化

近 藤 恵\*

要旨〔目的〕 $^{99m}\text{Tc}$ -GSAシンチグラフィの肝予備能評価方法としての有用性と肝切除等の術後の変化の検討．〔方法〕61例の患者に対し， $^{99m}\text{Tc}$ -GSAシンチグラフィを施行し，下記事項を検討した．1) 既存の肝機能検査との関係，2) Child分類との関係，3) 肝切除後合併症との関係，4) 肝切除後早期の変化，5) 肝切除後1年までの経時的変化，6) Hassab手術1年後の変化．〔結果〕1) HH15はICGR15，Albと，またLHL15はICGR15，T-Bil，Alb，HPT，Ch-Eと相関を示した．2) HH15，LHL15はChild A群と，B群，C群の間に有意差を認めた．3) 肝葉切除群において，合併症例のLHL15は非合併症例より有意に低かった．4) 肝切除後早期では，HH15，LHL15は術前と有意差がなかった．6) HH15，LHL15は術後1年に有意に改善した．7) Hassab術後1年にHH15は有意に改善した．〔結論〕 $^{99m}\text{Tc}$ -GSAシンチグラフィは，術前評価および侵襲前後の経時的観察において有用である．

(核医学 38: 191-200, 2001)